

会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所

一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会
発行責任者 宮島喜文
編集責任者 深澤恵治

〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号
TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722
ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

号外2

令和6年能登半島地震の活動報告(続報)

本年1月1日16時10分に発生した令和6年能登半島地震に関して、当会の状況報告を1月9日に号外として発行させていただきました。発災後50日を経た現在、当会として様々な活動を行ってきました。具体的には能登半島を中心とした、DVT検診活動や被災地の被災病院への人的派遣などを継続して行っているところです。また、当会としての心ばかりの義援金を石川県東京事務所へお届けに行っていました。今回の号外の概要は能登半島珠洲市におけるDVT検診活動に当会の広報担当者が帯同し取材をしてまいりましたので、ご確認をお願いいたします。(専務理事 深澤 恵治)

<日臨技活動状況>

- | | |
|--|--|
| 1月2日(火) 日臨技災害対策本部設置 | 1月15日(月) 第5回災害対策本部会議開催(DVTの検診活動を行うことを決定) |
| 1月5日(金) 第2回災害対策本部会議開催
石川県災害対策本部へリエゾン 1名派遣(以降交代しつつ1名体制を継続) | 1月19日(金) 第6回災害対策本部会議開催 |
| 1月6日(土) 「いしかわ総合スポーツセンター」避難所設営要員 7名派遣 | 1月21日(日)・28日(日)~2月6日(土) DVTの検診活動 |
| 1月8日(月) 第3回災害対策本部会議開催 | 2月1日(金) 第7回災害対策本部会議開催 |
| 1月9日(火) 公立穴水総合病院へ検査要員 1名派遣(その後、数名の派遣を継続、さらに要請のある地域・施設に人員を派遣) | 2月8日(木) 第8回災害対策本部会議開催 |
| 1月13日(土) 第4回災害対策本部会議開催 | 2月10日(土)・11日(日) DVTの検診活動 |
| | 2月14日(水) 石川県東京事務所にて義援金を寄付 |

能登半島地震支援活動に帯同

2月5日~6日、現地の状況の確認兼ドライバーとして、当会から派遣された首都圏・関甲信チームに帯同しました。



首都圏・関甲信チーム

首都圏・関甲信チームに筆者を加えた7名で機材を積んだ2台に分乗し、午後から天気が崩れるとの予報がある中、金沢市内を早朝6時に出発。順調に走行していましたが、災害支援の車両が多く、また高速道路の速度規制、亀裂や崩落などあり通常の2倍の時間(2時間40分)で公立穴水総合病院に到着。ここで心臓血管外科医である榛沢和彦先生(新潟大)と脳神経内科医の三橋里美先生(聖マリアンナ医科大学)のチームと当日のスケジュール、注意点など打ち合わせ



崩落した高速道路



公立穴水総合病院付近の状況①



公立穴水総合病院付近の状況②



公立穴水総合病院に設置された自衛隊風呂

を行い、輪島地区のDVT検診に出発しました。

余談ですが、病院駐車場に自衛隊中部の部隊の風呂があり40トン/dayのお湯を輸送し、15:00~21:00に提供、使用時はMAX5トン/時間のお湯を消費することでした。

この日周ったのは、劔地公民館(16名)→阿岸公民館(Skip)→黒島公民館(2名)→浦上公民館

(21名)の4ヶ所。避難所にいる被災者は仕事などで日中は3割以下らしく、高齢者がほとんどでした。エコノミークラス症候群の検査をしてもらったことに「ありがとう、すいませんね」と感謝の言葉が多く聞かれました。撤収後、穴水総合病院にて機材を返却、雪降る中の大渋滞で金沢に戻るのに何と5時間！ホテルロビーにて明日の集合時間などで解散となりました。



2月5日 浦上公民館でのDVT検査

翌6日は5:30に出発、予想より早く着き、コンビニ駐車場で待機後、7時半過ぎに穴水総合病院着。穴水総合病院整形外科の波多野栄重先生と榛沢先生、三橋先生と一部分割しての帯同、能登地区の避難所を周りました。訪問先は小木中学校(22名)→小木小学校(17名)→小木公民館(10名)の3カ所でした。

小木公民館では特定非営利活動法人ジャパンハートの副事務局長マーケティング部長兼地域医療国際緊急救援事業部長の高橋茉莉子氏に声を掛けられ、日臨技の活動内容を訊かれました。サマリーを伝えると「参考になります」とのこと、先方は看護師3名を派遣、大分ナンバーのキャンピングカーで寝泊まりしているとおっしゃっていました。撤収後、昨日と同様、穴水総合病院で機材を返却し、金沢まで前日が嘘のように順調に走行、ホテルで解散し、帯同を終えました。



2月6日 小木中学校での活動

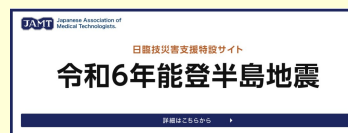


全体の感想として、震源に近づくにつれて、道路や家屋の被害が酷く大きくなっていました。とにかく道路の開通とインフラの復旧がないと次の手が打てないという状況がうかがえました。

派遣された皆さんはトイレ事情を考えて水分補給を控えており、食事でも車中でおにぎりやパンが中心で明らかにタンパク質、野菜不足です。注意しないとこちらがDVTになってしまう心配もあります。それから、日頃「蛇口を開くと水が出る」、「リモコン1つでエアコンが点く」、「コンビニに行ったら¥110で暖かいコーヒーが飲める」などは当たり前とっていますが、ここ被災地では違います。日頃の生活のありがたさを実感しました。

最後に、帯同し現地の様子を目の当たりにして思ったことは、日臨技のこの活動は誇れることだということです。

(日臨技 事務局 広報担当 増岡 雅嗣)



<https://www.jamt.or.jp/noto-eq/>

日臨技災害支援特設サイトでは随時活動内容等を更新しています

日臨技としての義援金を届けました。

2月14日(水)に令和6年能登半島地震に関して、日臨技としての災害義援金50万円を石川県東京事務所にてお届けいたしました。本来であれば石川県庁において馳知事にお渡ししたいところでしたが、災害対応に追われているということで、石川県の東京事務所(東京都千代田区都道府県会館14階)にて中谷安孝所長に宮島会長が手渡されたものです。被災された住民の方々に適切に役立てていただきたいと思います。



右：中谷安孝 石川県東京事務所所長、左：宮島会長